

嵯峨宮頼り

第 38 号

嵯峨宮：群馬県みどり市大間々町小平 348 番地

<http://www17.plala.or.jp/sagagu/>

発行日：2024 年 11 月 10 日

発行：嵯峨宮世話人会



折の内經由鳴神山産廃投棄問題
県外業者不起訴処分に対し
桐生森林事務所
検察審査会へ審査申立

前号(頼り37号)で鳴神山に産廃投棄し逮捕された県外業者二人を、前橋地検桐生支部が不起訴にし、理由も明かさないうちに落胆した、と述べた。しかし十月四日付上毛新聞によれば、県の桐生森林事務所が不起訴を不服とし、太田検察審査会に審査を九月十二日申立て受理されていたことが分かった。桐生森林事務所にエールを送りたい。テレビでは時々茨城県の産廃問題が報じられている。学童の登校路脇に産廃が高く積まれ、危険と業者に撤去命令を出し

県不服 検審査し立て

鳴神山に土砂搬入男性ら不起訴
群馬県桐生市に所在する鳴神山(標高約100m)に、県外業者が産廃を投棄し、児童の登校路に危険な状態を生じさせたとして、県警が捜査していた。県警は、この業者ら2人を逮捕し、起訴していた。しかし、県警は、この業者ら2人を不起訴とした。桐生森林事務所は、この不起訴を不服とし、太田検察審査会に審査を九月十二日申立て受理されていたことが分かった。桐生森林事務所にエールを送りたい。テレビでは時々茨城県の産廃問題が報じられている。学童の登校路脇に産廃が高く積まれ、危険と業者に撤去命令を出し

でも二割位しか持ち出されず、結局県の行政代執行で対応しているが、その費用は税金と報道されていた。茨城県が厳しくなると群馬県に持って来たとしたら甚だ遺憾だ。鳴神山に投棄された産廃が運び出される気配は今の処全く見えない。実被害が現れる前に早め早めの処置・処分を期待したい。

頑張れ、桐生森林事務所！

奥澤喜憲(よしのり)宮司

瑞宝双光章受章

嵯峨宮宮司奥澤喜憲氏が令和六年春の叙勲にて瑞宝双光章を受賞されました。保護司として多年にわたる更生保護活動への功



績が認められたもので、嵯峨宮世話人会一同心よりお喜び申し上げます。

今年五月滋賀県で保護司の男性が立ち直りを支援する35歳の保護観察中の男に殺されるという大変痛ましい事件がありました。保護観察への不満が動機らしいが、本人のためと思つての相談も相手がアイテ、素直に受け入れられず仇と為す場合もあります。徳と正義感、使命感を有し、体を張つてこそできる仕事のようなです。なり手不足という言葉に改めて納得し、賞の重みを認識させて頂きました。

神社の宮司としても小平嵯峨宮の他に、浅原の菅原神社や桐生市川内町の白滝神社、赤城神社(五丁目)、八幡宮、三島神社、赤城神社(二丁目)と七社を兼務されているとのこと、健康に気を付けて頂くと共に更なるご活躍を期待します。



令和六年 埋蔵祈願式
十二月十五日(日) 十一時

令和六年度第七回埋蔵祈願式を右日程にて実施致します。武者行列は小平の里から出発します。埋蔵祈願式での祈願を希望される方は祈願書に願文を記載の上、祈願料と共に封筒に入れ神社賽銭口へ投入するか、世話人へお申し付下さい。祈願書は神社にも備えてあります。

祈願料 千円

受付締切 十二月十三日

今年も幣束取扱います

嵯峨宮では今年も幣束を取扱います。ご希望の方は、世話人が大麻頒布の注文に伺うときお申し込み下さい。



幣束

価格180円

令和の庚申塔を探す

最近では田舎でも庚申待をする処は少ない。小平の谷ツ田地区では十月末頃当番制で、時間は短く簡素だが三峰神社のお祭り together 合わせて実施している。昔からある庚申塔には注連縄（しめなわ）を張り新米を供える。宴会場には庚申絵図を掛け、ケンチン汁等の料理を供えお祈りし、二時間程宴会する。今は地区唯一の寄合で、御近所の大切な情報交換と親睦の場である。庚申信仰由来の、人の体内にいる三戸（さんし）の虫が庚申の夜睡眠中に天帝に言いつけるから眠らないよう徹夜する、と意識する人は殆どいない。

嵯峨宮でもコロナ以前は秋の大祭の時当番の組がお籠りをした。午前零時を期してお参りに来る人達を迎えた。最近はそのう人もいなくなつてコロナを機に中止したが、数人で静まり返つた夜を朝まで起きているには体力も精神力も工夫もいる。とにかく時間が長い。世間話から始まり、一杯入れば家庭の事情も口からこぼれ、相談会にもなる。東の空が白む頃には目標や課題のみならず悩みも共有する仲間となる。学校の運動部が合宿したり、会社が新入社員教育を合宿で行うのも、組織の一体感をこうして情操させる意図がある。

庚申塔は一年六回を三年間、合せて十八回、庚申の日に庚申待を実施した記念に建てたものや、十年目毎、六十一年目毎、三十三回目毎に建てた地域もあつたようだ。今なら隣の家や冷蔵庫の中身が分るくらいの間柄になる。村の団結力は想像に難くない。庚申塔が建てられたのは江戸時代が圧倒的に多い。庚申信仰の崇拜対象を仏教では青面金剛、神道では猿田彦を夫々本尊とし



たため、宗教宗派に関係なく庚申待は共にしたとある。従つて御利益もこんなにあるのかと思う位多いと窪徳忠著「庚申信仰」（山川出版）には記されている。江戸時代になつて戦乱は無くなつたが、百姓は刀狩・検地で年貢は重く、五人組で連帯責任を負わされる。相互監視の意味でも庚申待は重要な役割を果たした。庚申塔は寺社境内や村境の出入口となる道端・辻に建てられ、外部からの魔除け、病魔退散等を祈願したようだ。村には招かざる客も多い。追放刑に処された者や盗人等の犯罪者、物乞い、勧進（かんじん）寄付等々のよそ者である。庚申塔を建て、団結力を示し、村への進入を

躊躇させる狙いがあつた。そして現代、道は車が通るために拡張され、或いは新道ができ、庚申塔は交通の邪魔と人気の少ない道の端に移動させられ、お役御免で過去の遺物となつている。

令和の時代スマホを使つた闇バイトなる新種の詐欺や強盗事件が多発している。指示役が実行役をSNSで募集し、応募した世間知らずの若者から個人情報を取つて、言うことを聴かなければ実家に危害を加えると脅し、スマホで指示しながら老人宅へガラスを割つて侵入させ、家人を殴つて金を出させ、侵入宅の車を奪つて逃げさせる。完全に実行役は捨駒だ。それが今首都圏から地方へ広がりがつつある。産廃すら茨城県から運んで捨てられる小平に来ないという保証はない。辻に木戸を設置し、AI付監視カメラで木戸番をする等の令

和の庚申塔を地域住民が徹夜して設置するしかなさそう。残念でならない。

黒田友宏氏 小平にて 税理士事務所開設

小平在住の黒田友宏氏はこれまで国税庁に勤務し今年七月栃木税務署を最後に退職され、この度小平の自宅にて税理士事務所を開設されました。家族を大事にし、自宅から税務署まで車で通いとおした頑張り屋さんです。過疎化の進んだ小平では顧客確保も大変ですが、私達は税金と関わらずにはいられない社会、毎年の所得税、地方税、国民健康保険税等の他、人生節目の譲与相続、事業承継等税の悩みを持つ人は多くいます。懇切丁寧にご相談に乗りたのでまずは気軽にお話しして下さいとのことです。

名称：黒田友宏税理士事務所

（阿直）